1クールの講義（1泊2日を想定）のタイムテーブル
（実際は、2～5クール（5日間連続）までの集中開催も可能）

- 経営幹部層の満足度が高く、再度同方式で学習したいという動機付けに繋がる手法とする。
- 1クール夕方から開催夕方から夜にグループディスカッション、翌朝発表を行うこととする。

講義1泊2日の基本タイムテーブル（案）

（ケースの予習）	夕方 :グループの組成 ＋ケースディスカッションの進め方説明	夕食後～ :グループ別 ケース・ディスカッション	翌朝 :グループ別 発表＋質疑	講義	①関連技術についての紹介 デモ ②経済（投資）効果の考え方 ③質疑
	2.5H～		3.0 H	2.0H	3.0H
① ケース企業における問題解決について、自分ならこうする、という解決策を腹案として用意してもらう。 ② ケーススタディの検討の過程で、自社の業務方式・システム方式を調査しておいていただく。	① 参加者の自己紹介と参加目的などの共有を行う。（アイスブレイキング） ② 講師がコースのねらいと進め方を説明。 ③ グループ分けの発表を行う。（グループ構成員は5人までとする） ④ 翌日のグループ発表への期待を述べる。	① 予め議長と発表者を互選で決定しておく。 ② 発表の論点に対して、グループでの分析、解決策の選択肢、その評価などについて、議論し、グループとしての意見を整理する。 ※ 各参加者が自社の仕事やり方、自社システム等の情報を基に、自社で本来やりたい業務の仕組みと実現へ向けた課題を整理して、翌日の講義へ臨む。	○ ケース企業における問題解決についての解決策とその理由について ○ グループ数≦5が適当 ○ 質疑を含めて30分程度の相互の質疑を行う。 ○ 教授は、各企業の製造プロセスと当該領域のテーマに照らして議論の内容を活性化させる。	① ケースの分析と解決へのこれまでの歴史的経緯、業務プロセスの変遷と技術革新の動向、現段階での解決の基本方針、将来の可能性について講義＋質疑を行う。 ② 必ずしもケースに捉われない、自社の問題や解決の方向についての議論を加える。	○ 関連するケースでの成功事例を含め、各ベンダーのシステムデモ付で解説する。 ○ 模範解答の背景にある専門知識や海外での常識となっている知識体系（例：SCMにおけるAPICS等）を。必要に応じ解説する。 ○ 時間の限り質疑

NRI Copyright（C） Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.